

ふくおか A L 通信

～県立学校の教室から～

第5号
(H29.9)

福岡県立学校
新たな学び
プロジェクト

✿ 福岡県立小倉南高等学校

鍛え、ほめ、可能性を伸ばし、サザンクロスプランで進路実現を目指す
第5号は「福岡県立小倉南高等学校」の取組を紹介します。小倉南高等学校は創立110周年を越える歴史と伝統「南高PRIDE」を受け継ぎ、教職員の協働体制のもと、生徒一人一人の自己実現を目指し、社会の変化に対応して地域を支え、国際社会に活躍できる人材育成に取り組んでいます。

1 授業改善のめざす方向性

小倉南高等学校の教育活動の重点目標は、次の3点です。

- ・「南高PRIDE」を継承し、何事にも意欲的、主体的、協働的に取り組む。
- ・社会の変化に的確に対応し、希望進路を実現させるための教育活動を学校全体として計画的に行う。
- ・人権尊重の精神を涵養し、いじめ、暴力等絶対に許さない人間教育を行う。

上記の重点目標を踏まえ、「授業改善と基礎学力の定着」として、学校のグランドデザインの中に次の3項目があげられています。

- ・日々の授業の分析・検証及び改善による「授業で勝負する」教師力の確立と生徒の学習意欲向上
- ・ICT機器の活用、アクティブ・ラーニングの視点による授業改革
- ・漢検、英検、GTEC、ボキャブラリー・コンテストの実施

これら3つの項目に対して、小倉南高等学校はアクティブ・ラーニング型授業をはじめ、様々な取組を行っています。

2 具体的な取組

(1) 各教科の授業での取組

すべての教科・科目で、アクティブ・ラーニング型授業が行われています。移動用ノートパソコン、プロジェクター、簡易スクリーン等のICT機器を昨年度新たに購入し、多くの教員が授業で活用しています。また、教員が定期的に授業アンケートを実施し、課題の量や授業進度等を確認するとともに、生徒自身が自らの学習を振り返る機会としています。



教室後方で、電子黒板を用いて確認を行い、その後教室前方で本時の課題の提示を行い、協議へ進む。

(2) 「サザンクロス(南十字)プラン」での取組

「サザンクロスプラン」とは、小倉南高等学校が行う高等学校3年間を通して行う組織的・体系的な進路学習のことです。授業だけでなく学校行事においても生徒自身が、自ら考え、調べ、他者と協働することや主体的に学習・体験を行うことで、自分自身の可能性を見だし、社会に主体的に逞しく生きるための資質を育むことを目指しています。この取組が、教師主導型の学習指導から生徒主体の学習指導への転換を促し、学校全体でのアクティブ・ラーニング型授業の推進につながっています。

(3) 職員研修の計画的実施

教育目標達成に向けて、研修主任がリーダーシップを発揮し、外部講師を招聘した職員研修・授業研修会・公開授業を系統的に行っています。また、教員相互による公開授業参観を定期的に行い、協働的に自己研鑽を行う環境が醸成されています。

【過去3年間に実施された職員研修】（*印については外部講師招聘）

<平成26年度>

- ・英語科担当教職員研修会
- ・授業研修会 テーマ「わかる授業の実践」 授業実施教科・人数 6教科・13名・・・*
- ・職員研修会「ICTを活用した授業改善について」（11月）・・・*
「PowerPoint研修会(入門編、実践編)」（12月）・・・*

<平成27年度>

- ・英語科担当教職員研修会・・・*
- ・授業見学週間（AL型授業、ICT活用授業）授業実施教科・人数 7教科・12名
- ・授業見学週間（AL型授業、ICT活用授業）を踏まえての情報交換会
- ・授業研修会 実施教科 各教科
- ・職員研修会「2020限界突破小倉南のアクティブ・ラーニング」（6月）・・・*
- ・公開授業

<平成28年度>

- ・授業見学週間（AL型授業、ICT活用授業）全職員が授業実施
- ・授業見学週間（AL型授業、ICT活用授業）を踏まえての情報交換会
- ・授業研修会（年3回） 実施教科・人数 3教科・4名
- ・講演会「立命館宇治のキャリア教育」「授業でのキャリア教育」（5月）・・・*
「二次試験に対応出来る力を育成するアクティブ・ラーニングの実践について」・・・*
- ・職員研修会「電子黒板の使い方」（3月）

3 導入の成果

(1) 生徒の変容

サザンクロスプランの取組を通して、生徒の課題発見力・問題解決能力が伸長し、自分の進路を主体的に考えて選択する姿が顕著になりました。難関大学の推薦・AO入試等に自ら進んで果敢にチャレンジし、進路目標を達成する生徒が増えています。

授業においては、生徒の学習意欲の向上が見られます。それに伴い校外模試における上位層の増加、下位層の減少という成果が現れている教科もあります。努力すれば結果が現れ、成績も向上するというのを、授業を通じて生徒が実感できていると考えられます。

(2) 教師の変容

各教科担当者が協力してアクティブ・ラーニング型授業に取り組んでいます。クラスの状況に応じて、班別授業や一斉講義プラス教え合いの授業等、形態を工夫しています。また、隣接した教室で授業を行う場合、担当同士が廊下で授業進捗や方法・問題点を話し合うことも多く、教員間の意見交流が増えています。

4 今後の課題

(1) 教師の授業力の確立

アクティブ・ラーニング型授業やICTを活用した授業をさらに工夫し、生徒の学習意欲をさらに向上させる必要があります。

(2) 学習評価の在り方

アクティブ・ラーニング型授業の成果をさらに高めるために、学習評価の改善についての研究を進めています。